た午後は其の講話された事を野外に於て實地に筆を執つて示されたのである而かも其の書かれた場所は我が地方の景色に大概出て來て又其の應用の範圍の廣い材料が澤山有る所であつたから其の得たる所が多かつたのである。是迄の經驗に依るとどうしても專門家の肉筆を見たり模寫したりするより外に捷徑は無い樣だ專門に研究する人でも先づ先輩の遺り方を一通り調べてそれから實地に當つてそれ以上の工夫をするのであらう吾々は娯樂の爲に繪を書くので研究などいふ資格がないのであるであるから吾々は何も書けない物を無理に書きたがるには及ばない先づ第一に大家の肉筆を見たり模寫したりして其の得た知識を以て描けるだけの物を描いて居れは充分樂みになるのである吾々は丸山河合兩先生が惜氣も無く神作を本會へ貸して下さるのを此の上も無く有り難い事に思ふ。吾々は初は講義錄體の物に由つて模寫したものであるが其の說明通りに繪具を交ぜてもどうしても其の色が出ないそこで始めて肉筆と違つてゐるのではあるまいかと氣がついたのであるそれからどうかしく度々大家の肉筆を見たり模寫したりする機會を得たいと心がけて居つたので有るが今は本會の設立に依つて其の大願が成就した譯である數里を遠しとせずして本會に加入された者も數名あるが大方講義錄などの價値の少い事を認めた方であらう

△　△　△

この程少年世界で集めた現代名家幼時の記憶のうち、その最も好きであつた事」との問に對して「繪を畫くこと又は見ること」と答へられしは左の二十七氏である

伊藤銀月君、生田葵山君、萩野由之君、四村渚山君、大倉平三君、大町桂月君、大下藤次郎君、和田萬吉君、和田英作君、鎌田榮吉君、梶田半古君、横井時敬君、添田壽一君、坪井正五郎君、內藤鳴雪君、那珂通世君、中村不折君、丸山晚霞君、松井直吉君、江見水蔭君、櫻井義肇君、佐々醒雪君、三宅雄二郎君、三宅克己君、水野繁太郎君、鹽井雨江君等

そして、「最も嫌いであつた事」の方に、算術や手習讀書などは澤山あるが、繪が嫌いであつたと答へた方は一人もない。また言ふまでもなく主筆の巖谷小波氏は幼年時代から繪は大好物であつた

墨繪や彩色畫の濃淡の調子を見るための『調子鏡』は、通常繪具屋にあるのは高價でありますから、私が修業の餘暇に造つたものを實費で頒ちます。御入用の方は、東京小石川區服部坂下日本水彩畫會內、C、M、生宛に御申越下さい

● 調子鏡、　一個金十錢、小包送料金十錢
（郵券代用差支なし）